

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06 (6772) 2320
FAX. 06 (6772) 2327
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 切石博之
会長ノミニー 浅野光男
副会長 宮崎康治
幹事 細川勝治
会報委員長 岡田忠彦

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

地域を育み大陸をつなぐ

2010~2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第1779例会 平成22年9月6日(月曜日) 第8号

本日の例会

9月6日(月)第1例会

- ◎ソング 「君が代」「我等の生業」
- ◎卓話 「私学助成について」
(担当 小林成共会員)
- ◎本日の献立 フランス料理

次回の例会

9月13日(月)第2例会

- ◎卓話 「四大奉仕」と手続要覧
ゲストスピーカー R I 第2660地区 I.M. 第4組
ガバナー補佐 山片重房様
- ◎本日の献立 松花堂弁当

前回の例会記録

8月30日(月)第4例会

会長挨拶

会長 切石博之

毎日、猛暑の日が続いております。本当なら、残暑が厳しいですねと云いたいのですが、気温が高過ぎてそのイメージにはなれません。体調管理には十分に気をつけて頂きたいと思っております。

先週、仕事で南紀の新宮に行ってきましたが、町を歩いていると虫の音が聞こえてきて、季節が動き始めているのを感じました。

さて、最近は何も使いませんが「旦那」と云う言葉があります。意味としては会社の経営者「社長」また

は人の上に立つ存在「主人」「大将」「おやっさん」等、その人の云うことを聞かねばならない、とういう人を指すのが通例と思います。

江戸時代の商家「越後屋」「三河屋」等の主人を「旦那」「旦那さん」と呼んでいたのが、現在の「社長」と同じ意味合いで使われた言葉と思います。

「旦那」はどこから来た言葉かと云うことなのですが、もとは仏教用語でインドから中国を経て渡来した言葉であります。仏教の経典の中に、ヒンズー語でダーナという言葉があります。そのお経を三蔵法師が唐に持ち帰り、中国語に翻訳した言葉が「旦那」と云う文字であります。

ところが「旦那」には人の上に立つと云う意味は無く、「人の世話をする人・施しをする人」と云う意味があり、こういう人を「ダーナ・旦那」と呼んだのです。旦那とは、人の世話をする人・施しをする人と云いましたが、その施し「布施」とは何であるのか。布を施すのでありますから、モノを施すのであります。決して東大阪市の布施のことではありません。①心施 ②身施 ③和顔愛語施 ④房舎施 ⑤物施、他にも施しの種類はあると思います。ただ、人の世話をする、面倒を見るのは今日でも容易なことではありません。ましてお釈迦様の時代には、本当に大変なことであつたはずであります。だからこそ、そういう人物は人に敬われ「あなたの云うことなら聞きます」「従います」

となり、次第に人々を束ねる立場に立ち「ダーナ・旦那」と呼ばれるようになったのではないのでしょうか。

このように思うとき、「旦那」とは「ロータリアン」そのものに思えてきました。私は「旦那」の心を大切にロータリアンとして行動しなければと思います。

今日の俳句は、

看板の蟹まで茹る猛暑かな 東光

幹事報告

幹事 細川勝治

1. 9月の第3回定例理事・役員会は、9月13日(月)第3回クラブ協議会後に開催しますので、理事・役員各位にはご確認をお願い致します。

出席報告

和田委員

本日の会員数	39名
本日の出席者数	30名
本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	88.24%
8月9日の修正出席率	81.82%

委員会報告

ロータリー財団委員会 委員長 百済洋一

8月28日(土)大阪YMCA会館にて、第2660地区財団セミナーが開催されました。細川幹事と出席して来ました。ロータリー財団の概略説明から現在の状況について報告がありました。

今年度地区の寄付目標は、年次寄付1人130ドル以上。ポリオ撲滅寄付金は、1人3,000円以上。クラブに対しては、恒久基金(ベネファクター)毎年1人以上。ベネファクターとは、1,000ドル以上寄付をした人に与えられる認証です。ロータリーカード1クラブ3名以上です。会員皆様のご協力をお願い致します。

卓話

「落語を十倍楽しむウラ技」

日本料理 江戸堀

やまぐち代表 山口一儀様(大阪西南RC)

落語を一言で言いますと、サゲのついた一人語りのお話とでも言ってよいでしょうか。人情噺や怪談噺にはオチはありませんのでいくら噺家さんが演じて落語とは申しません。

落語を聞くのに素直に話芸や噺の内容を楽しむことで良いと思っています。ただそれに一寸した落語の基礎知識やルールを知っていると今日の演題の「落語を十倍楽しむ」事が出来ると思うのです。

落語は一人語りの芸で、どんなに短い落語でも必ずストーリーがあります。落語とは、座ったままで演じる一人芝居だとお考えください。

背景も大道具も小道具もありません。あえて使う道具といえば、噺家が必ず持っている手ぬぐいと扇子だけです。

演者は普段着の着物姿で、長屋の住人からおかみさん、大家のご主人、遊女、お寺の住職、お大名に天皇陛下下果ては、狐や狸、閻魔大王まで演じ分けなければなりません。舞台は貧乏長屋の一室から大店の店先、奉行所のお白州、京都御所から海底の竜宮城に天上界、地獄八景まで広がっていきます。

落語を聞く我々は、噺家さんの言葉と上半身の仕草だけで登場人物やその場面を想像しなければならないのです。有る意味、「もっとも不親切な芸」であるかも知れません。

戦前までは、歌舞伎などの舞台上で演じられる芝居の基礎知識やルールを観衆が知っており、古典落語もその前提で出来上がってきたものなのです。落語は、先ほど申しましたように舞台上で芝居が演じられているのです。ですから落語をラジオで聞いてもレコードで聞いてもイメージーションの中で舞台が広がっていくのです。ましてや名人と言われる噺家が演じる落語は歌舞伎の花舞台を観るような華麗な物語の世界へと案内してくれる訳です。

江戸落語と違い、上方落語では「鳴り物」を使います。鳴り物は、遊郭や色町の賑やかさを表現したり、芝居噺のBGMとしても良く使われますが、太鼓や鉦などによる効果音も歌舞伎や文楽と同じルールの中で使われています。

時間の関係ですべてを言い尽くせませんが、落語の持つ魅力の一端を知っていただけたでしょうか?そして、今度落語をお聞きになるとき、上下のことや噺家さんの目線の使い方、鳴り物や効果音にちょっと気をつけていただければ、今以上に落語を楽しんでいただけたと思いますし、歌舞伎や文楽を観る楽しみも増すのではないかと思います。